



Kumamoto Prefectural Education Center

熊本県立教育センター 共同研究2016  
研究紀要パンフレット 45集



「これからの社会に求められる資質・能力」  
の育成に向けた児童生徒の  
主体的・対話的で深い学びの充実

## 研究のキーワード

〔社会に開かれた教育課程〕

〔資質・能力〕

〔主体的・対話的で深い学び〕

〔カリキュラム・マネジメント〕

# 研究テーマ

「これからの社会に求められる資質・能力」の育成に向けた  
児童生徒の主体的・対話的で深い学びの充実

## 研究の目的

本教育センターでは、これまで3年間、学習指導要領改訂に向け「資質・能力」を育む学びについて先導的な研究を行ってきた。今年度はこれまで蓄積してきた実証研究を基に、各教科・領域等における授業モデルとして提示することを目的とする。

また、学習指導要領改訂に向けた研究の集大成として新たに「社会に開かれた教育課程」編成に向け、各学校において必要な力として「これからの社会に求められる資質・能力」を設定し、その育成を目指す開発的研究も行う。

さらに、熊本県内の喫緊の教育課題に対応する研究を行うことにより、授業づくり等の実践例を県内に広く提供することとする。

## 3年間の研究経過

1 年次

H26年度(2014)  
協働・協調的な学び

各教科において育まれる「資質・能力」  
について検証

2 年次

H27年度(2015)  
協働・協調的な学び

「21世紀型能力<sup>\*1</sup>」の実践力を育む  
授業づくりの手法について検証

**視点1** 学びを引き出す 豊かなかわり合いのある  
言語活動の設定

**視点2** 学びを振り返る 思考過程の可視化と  
学びの振り返り

**視点3** 学びを支える 学びのインフラ整備  
人間関係づくり

→ より主体的な学習の展開を図る「問い」の工夫

→ 思考ツールを活用した思考過程の可視化と  
振り返りの場の設定

→ 学びのUD化と  
効果的なICTの活用

1年次の研究では、「協働・協調的な学び」の展開を目指し、学習活動の工夫によって育成される「資質・能力」とは何かについて明らかにすることを試みた。2年次は、「協働・協調的な学び」の展開によって「21世紀型能力」の実践力<sup>\*1</sup>の育成を目指した。

その結果、研究の三つの視点で取り組んだ手法が、「資質・能力」の育成に大きな役割を果たすことが分かった。また、本県の喫緊の教育課題に対応すべき教科・領域等もあり、テーマ研究とは別にそれぞれ課題を設定し研究に取り組む必要性も見えてきた。

そこで、3年次に当たる本年度は、これまでの研究の成果である研究の視点に基づく授業づくりの手法を継承しつつ、「資質・能力」の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業の在り方を検証する「テーマ研究」や、喫緊の教育課題に対応する「課題研究」を行うこととした。

3 年次

H28年度(2016)

「主体的・対話的で深い学び」

問題発見・解決のプロセスの中で、見通しを持って学習に取り組み、他者との協働を通じて、学習内容の獲得や資質・能力を育てることを目指した学び

「これからの社会に求められる資質・能力」の設定と  
その育成について検証

**視点1** 学びを引き出す 学習活動を生む  
「問い」の工夫

**視点2** 学びを振り返る 思考過程の可視化と  
学びの振り返り

**視点3** 学びを支える 学びのUD化と  
効果的なICTの活用

<sup>\*1</sup> 国立教育政策研究所が、求められる資質・能力の枠組みの試案として、基礎力、思考力、実践力の三層構造で2013年に提案した。

# 研究の内容と方法

## 内容

- カリキュラム・マネジメントの側面を踏まえ、「社会に開かれた教育課程」編成に向けた開発的研究を推進する。
- 道徳や外国語の教科化や教育の情報化、インクルーシブ教育システム構築に向けた取組の充実など、喫緊の教育課題に対応する課題研究を行う。

## 方法

- 「社会に開かれた教育課程」の考えを踏まえ、研究協力員の担当学級や研究協力校を対象とした「これからの社会に求められる資質・能力」を調査する。
- 研究の視点による児童生徒の学びの充実を図り、資質・能力の育成について検証する。
- 県内の教育課題の解決に向けた実践を蓄積する。

# 研究の組織

2016  
研究

研究企画会議

研究事業推進委員会

研究企画係会

### 調査研究ユニット

研究協力校、研究協力員との連携による資質・能力の設定方法及びカリキュラム・マネジメントの在り方・手法を研究提案

### テーマ研究ユニット

国語（小・中・高）社会（小・中）  
公民（高）算数（小）数学（中・高）  
理科（小・中）音楽（小）美術（中）  
体育（小）保健体育（高）家庭（高）  
総合的な学習の時間（高）  
産業教育（高）

### 課題研究ユニット

[特別支援教育]（小・中・特）  
[情報教育] 配信型研修  
[特別の教科 道徳]（小・中）  
[英語教育]（小・中）

### 研究協力校

- ・研究内容について本センターの研究企画と研究協力校が連携
- ・研究授業と公開授業の支援

### 研究協力員

教育センターが推進する研究テーマで、研究協力員と指導主事が共同で研究を行う。検証授業実施、所員研修会等への参加、研究発表への協力を行う

# 研究ユニットの取組

## 調査研究ユニット

学校教育目標をチーム学校として実現するために、それぞれの教員が学校教育目標とのつながりを意識化できるようなワークショップの手法を開発する。  
また、テーマ研究ユニットの研究成果をもとに、学校教育目標を実現するための効果的・効率的なPDCAサイクルを確立する手法について理論研究を進める。

## テーマ研究ユニット

カリキュラム・マネジメントの側面を踏まえ、児童生徒の「これからの社会に求められる資質・能力」を設定する。  
さらに、単元や一単位時間において「社会に開かれた教育課程」となるよう計画する。各教科・領域等における学習の充実を図りながら、「資質・能力の育成」を目指す授業の在り方について検証する。

## 課題研究ユニット

道徳では、「特別の教科 道徳」の実施に向けた「熊本の心」を活用した実践を蓄積する。  
英語教育では、CAN-DOリストを活用した授業をデザインする。  
情報教育では、配信型研修の可能性を探る。  
特別支援教育では、インクルーシブ教育システムを踏まえ、障がいの状態に応じた主体的な学びを目指す。

# 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組

## 「社会に開かれた教育課程」の実現

平成28年12月「中教審答申」より

### 重要点②

これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと

### 重要点①

社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと

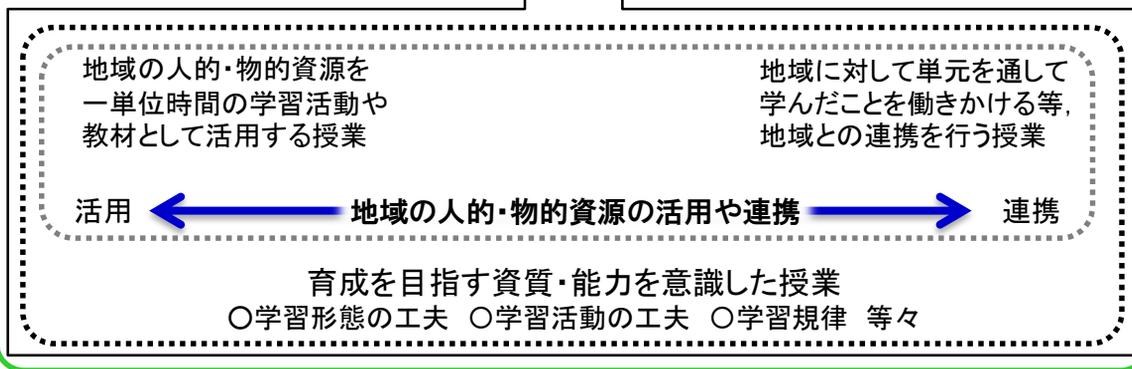
## 目標の共有

学校が目指す      社会が目指す



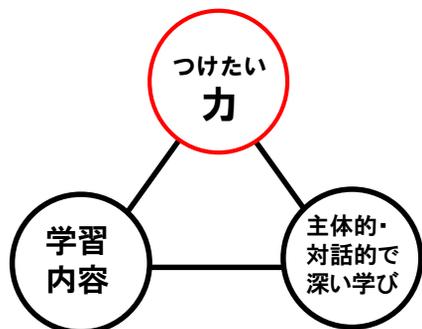
### 重要点③を踏まえた各教科・領域等の授業づくりにおける考え方

育成を目指す資質・能力



### 重要点②を踏まえた「これからの社会に求められる資質・能力」の設定

「これからの社会に求められる資質・能力」



「何を学ぶか」  
各教科・領域等の  
学習内容

「どのように学ぶか」  
本研究の三つの視点で  
学びの充実を目指す

「社会に開かれた教育課程」編成に当たり、求められる資質・能力の明確化は欠かせない。その明確化のために、研究協力校や研究協力員の学校において、学校教育目標を具現化した児童生徒の姿や、その姿を実現するために求められる資質・能力を学校と協議を重ねた。学校、地域の願い、児童生徒の実態を考慮し、協議の中で見えてきた必要な力を資質・能力として具体化していった。（設定方法の詳細は本パンフレットP.5～6を参照）

本センターでは、「テーマ研究」において、この具体化した資質・能力を「これからの社会に求められる資質・能力」として設定し、それらの育成を目指す授業展開について検証を行った。

# 研究の三つの視点で学びの充実を目指す

視点1

学びを**引き出す**

学習活動を生む  
「問い」の工夫

視点2

学びを**振り返る**

思考過程の可視化と  
学びの振り返り

視点3

学びを**支える**

学びのUD化と  
効果的なICTの活用

(習得・活用・探究) 学びのプロセス

学びを支える

学習過程の例

課題把握  
見通し

学びを**引き出す**

～しよう  
～してみよう

**当事者の視点**

※立場を明らかにする「問い」

どのように～  
どちらが～

**評価者の視点**

※評価を促す「問い」

なぜ～  
どうして～

**分析者の視点**

※分析を促す「問い」

自力解決

学びを**振り返る**

思考ツール等を活用したワークシートやノートにより、考える視点を与え、児童生徒の考えを可視化できるようにする

協働解決

自ら価値を創造する  
自ら未来を創りだす

子供同士の協働を  
コーディネート

主体的に、みんなで協働しながら

思考ツール等の活用



協働の目的の明確化

- ・出し合う
- ・一つにまとめる
- ・三つ選ぶ 等

まとめ  
振り返り

学びを**振り返る**

「振り返り」の視点の例

**学習内容**

●何を学びましたか？【内容】

**学習過程・方法**

●「こうすればもっとよかった」と思うことは？【過程・方法】

主体的  
な学び

対話的  
な学び

深い  
学び

アクティブ・ラーニング

← **AL** の視点

「学びの充実を振り返る  
際の授業改善の視点」

各学校には、学習指導要領等を受け止めつつ、子供たちの姿や地域の実情を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、**学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施、評価し改善していくことが求められる。**

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」より

「これからの社会に求められる資質・能力」を育成するためには、学校ごとにカリキュラム・マネジメントを行い、「社会に開かれた教育課程」を実現する必要がある。また、学校における様々な課題を解決するためには、学校が「チーム学校」として機能する必要がある。そのための中心となるのがそれぞれの学校で立てられた学校教育目標である。

教育センターでは、カリキュラム・マネジメントや「チーム学校」の実現に向け、研究協力校である山鹿市立山鹿小学校、山鹿中学校と協力して「学校教育目標を具体化し、共通認識するためのワークショップ」を行った。



## ワークショップの流れ

目標

学校や地域の実態を踏まえた学校教育目標を確認する。

姿

学校教育目標を「めざす児童生徒の姿」に具体化する。

問い① 学校教育目標を実現した児童生徒の姿として、どんな場面で、どんなことをしている姿を思い浮かべますか？

「自分だけでなく、他の人が分かるようになったことを喜ぶ姿じゃないかな。」  
「難しい問題を粘り強く、一生懸命考えている姿もいいと思うよ。」



つけたい力

児童生徒の姿から「つけたい力（資質・能力）」を導き出す。

問い② 問い①についての話し合いで出たような児童生徒は、どのような力を持っていると思いますか？

「一緒に喜ぶためにはコミュニケーション力や共感する力が必要だと思う。」  
「難しい問題でも粘り強く考えるためには、見通しを持つ力や忍耐力も必要だね。」

「つけたい力」を絞り込む。

問い③ 本年度1年間を通して、学校全体で育成を目指したい力はどの力ですか？

「先生の多くが“見通す力”を挙げているので、一つは“見通す力”にしよう。」  
「学校教育目標の実現のためには、“共感する力”も必要だと思うから、これも大事にしたいですね。」



「カリキュラム・マネジメント」については、以下の三つの側面から捉えることができる。

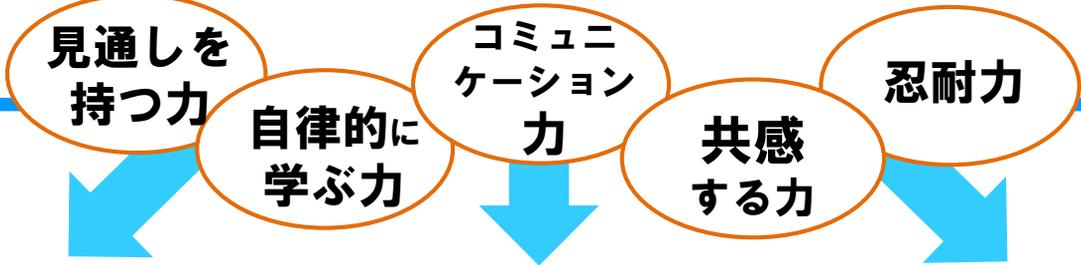
- 側面① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列すること。
- 側面② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- 側面③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」より

ワークショップによって学校教育目標を「目指す児童生徒の姿」まで具体化し、学校全体で「つけたい力」を明確化して共通認識することにより、上記の三つのカリキュラム・マネジメントを効果的・効率的に実現することができる。

カリキュラム・マネジメント

共通認識した「つけたい力」をCMに生かす



側面①  
教科等横断的な  
教育内容の組織的配列

「つけたい力」（資質・能力）を育成できるような言語活動を位置付けることによって、教科や学年の枠を越えて共通実践し、授業研究することができるようになる。また、各教科等と総合的な学習の時間や特別活動とをコンテンツ（内容）ベースだけではなく、コンピテンシー（能力）ベースで連携させることができるようになる。

指導上の留意点及び	
T 1	
○元気よく行い、生徒の意欲を喚起できるようにする。	○確く綴
○帯活動で一般動詞の復習を行い、三単現の表現に気付きを持てるようにする。	○追記を行
○毎時間口頭練習の時間を設定し、基礎的・基本的事項の定着を図る。【資質・能力③：自律的に学ぶ力】	○全人が

身近な人を紹介できるようになる  
つけたい力を位置付けた指導案例（中学英語）

側面②  
教育課程の編成、実施、  
評価、改善（PDCA）

「体育大会を通してどのようにつけたい力を高めるのか」「授業を通してつけたい力は高まったか」など、教育課程の編成や実施、評価、改善の視点の中に「つけたい力」を位置づけることで、児童生徒の姿を中心に据えたPDCAサイクルを確立することができるようになる。

■ 学習に関するアンケート ■ 【中学校・生徒用】

このアンケートは、学校での学習・授業について、たずねテストではありません。思ったことをそのまま答えてください。まず、あなたのことについておたずねします。（あてはまるものに○）  
あなたの学年は： 中学校 1年生・2年生・3年生  
次の1から16までの質問を讀んで、自分にあてはまる数字に○をつけ

質問	そう思う
1 自分は、（教科名）の授業を通して知ったこと、できるようになったことが、他の授業や普段の生活の中で活用できるのではないかと考えるようにしている。	1
2 自分は、（教科名）の授業の中で、これまでの学習や経験を活かして自分の考えを持つことができる。	1
3 自分は、（教科名）の課題を解決するときに、1つのやり方だけでなく、別のやり方がないか考えるようにしている。	1
4 自分は、先生の話や、他の生徒の発表を聞いて、（教科名）が面白く感じられるようになった。	1
5 自分は、（教科名）の授業で学んだことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うことがある。	1

授業改善（Check）のための「学習に関するアンケート」

側面③  
教育内容と必要な資源の  
効果的な組み合わせ

「つけたい力を高めるために」という観点で地域を見つめ直すことで、地域の人材や施設、史跡などを効果的に活用できるようになる。また、「つけたい力」を地域や家庭と共有しておくことで、学校だけでなく、地域や家庭と一体となって、児童生徒の成長を見守り、支えることができるようになる。



地域の人材を効果的に活用し交流を位置付けた授業（高校保体）

# テーマ研究

「調査研究」の取組を基に、「これからの社会に求められる資質・能力」を「つきたい力」として設定した。各教科・領域等の取組は、その「つきたい力」の育成と、学習内容の獲得を目指したものである。詳細については、本教育センターホームページに「研究のまとめ」として掲載している。

<http://www.higo.ed.jp/center/研究紀要/>

## ① 小学校国語 八代市立金剛小学校5年

つきたい  
力

つながり合う力

「明日をつくるわたしたち」

ね  
ら  
い

単元を通して「学校や地域での生活をよりよくなる提案書」を書くことを目指した。提案書をより良くするには、読み手を意識した記述が必要である。そこで互いに助言し合う学習活動を設定した。この助言の内容を検討する活動により「つながり合う力」の育成をねらった。

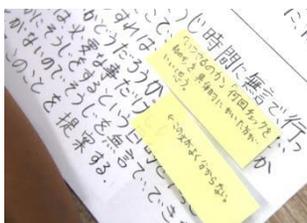
学びを引き出す



内容面を推敲するポイントを確かめた。

- 提案内容が具体的か
- 課題を解決するものか

学びを振り返る



助言の際には付箋を用いた。他のグループとペアを組み、互いに助言を書き込んだ。

学びを振り返る



助言に対する書き直しを検討しているときに、付箋に書かれた助言が適切かどうかを問い返し、確かめた。

「つながり合う力」の育成について

助言者に助言の内容を問い返したり、助言に対する書き直しを班で相談しながら解決しようとしたりするなど、友達と助け合う姿が見られた。このことは、班で協力して提案書を書くという学習活動の工夫により、「つながり合う力」が高まったためと考える。

## ② 中学校国語 錦町立錦中学校1年

つきたい  
力

伝え合う力

「シカの『落ち穂拾い』」

ね  
ら  
い

「錦町が目指すべき将来の方向性を理解してもらうには、どんな図表を用いたらよいだろうか」という単元を貫く「問い」を設定した。このことにより、図表の効果や役割について考える学習活動を行い「伝え合う力」の育成をねらった。

学びを引き出す



「錦町人口ビジョン」の文章にふさわしい図表を六つの中から二つ選んだ。

学びを引き出す



「対話型言語スキル」を活用して、根拠を明確にして選んだ理由を伝え合った。

学びを振り返る



「友達から学んだこと」「次に生かしたいこと」等の視点で本時を振り返った。

「伝え合う力」の育成について

自らの考えを分かりやすく説明したり、友達との交流から自分の考えを広げ深めたりするなど、「伝え合う力」としての「互いの立場や考えを尊重し、言語で適切に表現する」姿が見られた。このことは、「対話的な学び」を通じた言語活動の充実が図られたからだと考える。

### ③小学校社会 芦北町立田浦小学校6年

「世界に歩み出した日本」

つきたい  
力

思考力・判断力・表現力

ねらい

単元を貫く問いを設定し、毎時間問いを意識しながら学習課題を追究させるとともに、条約改正への大きさという視点からランク付けさせる活動に取り組みさせることで、「思考力・判断力・表現力」の育成をねらった。

学びを引き出す



条約改正に影響を与えた歴史的な事象のBEST 3について、個人、班、全体で考えた。

学びを振り返る

条約改正を成功させた理由について、根拠を挙げて説明しよう。		
なぜ、日本は条約改正を成功させることができたのだろう。		
☆不平等条約の改正に影響した（と想う）事象の考え		
1	日清戦争日露戦争の勝利	1
2	科学分野での日本人の活躍	2
3	大日本帝国憲法国会開設	3

【最終決定のランキングにした理由】

友達との考えの相違点を明らかにしたり、共通点を見いだしたりした。

学びを振り返る



学びの深まりや考えの変容について、理由を明らかにしながらまとめた。

「思考力・判断力・表現力」の育成について

歴史的な事象を多角的に考察したり関連付けたりしながら事象の意味や意義を見いだしたり、社会的な見方や考え方を生かしながら発表したりする姿が見られた。このことは、歴史的な事象を関連付けることを求めた課題設定の結果であると考えられる。

### ④中学校社会 山鹿市立鶴城中学校2年

「世界から見た日本の人口」

つきたい  
力

批判的思考力

ねらい

本時までの学習を通して獲得した価値観を覆すような問いを提示し、ディベートを行わせる。その際、肯定側・否定側・判定側、それぞれの立場を経験させることを通して、社会的な事象を様々な視点から考えさせることで、資質・能力の育成をねらった。

学びを引き出す



全ての生徒が主張・根拠・理由付けを明らかにしながら、ディベートを行った。

学びを振り返る



課題に対する最終的な自分の考えについて、根拠を明らかにしながらまとめた。

学びを支える



視覚的に示されることで、全ての生徒がディベートの流れや方法を把握した。

「批判的思考力」の育成について

社会的な課題について、主張・根拠・理由付けを明らかにしながら様々な視点で考えたり、考えを深めたり、新しい考えを創造したりする姿が見られた。このことは、課題を解決するためのディベートを通して、多面的な視点を持つことができた結果であると考えられる。

⑤小学校算数 玉名市立横島小学校6年  
「速さ」

つけたい力 既習の知識を使って新たな問題を解決する力

ねらい

「速さ」に関する事象は日常生活に多く存在している。感覚的に判断していた「速い」「遅い」について、数値を用いて客観的に比較したり、移動する際「どのくらい時間がかかる」「どのくらいの距離がある」等、予測したりする場面を設定した。このことにより、「新たな問題に対して既習の知識を生かして解決する力」の育成をねらった。

学びを引き出す



日常の事象や既習事項とのつながりを意識した。

学びを振り返る



何のための学び合いの時間なのか目的を共有した。

学びを支える



ICTの活用により、問題場面の様子を視覚的に確認した。

「既習の知識を使って新たな問題を解決する力」の育成について

授業の中で「単位の違う速さを比べる」ことの困難さの理由を、既習事項と比較して考える児童の姿が見られた。また、適用問題を解くことができ、「分かった。」「学びを生かして解決できた。」等を実感する意見が多く見られた。このことは、既習や日常の事象と算数とのつながりを意識した取り組みを継続した結果であると考えられる。

⑥中学校数学 天草市立五和中学校1年  
「方程式」

つけたい力 自ら考え、主体的に問題を解決する力

ねらい

総合的な学習の時間に行った体験活動の写真を、模造紙に割り付けて文化祭に掲示することで、解決する必然性のある課題設定ができ、併せて目的に応じた学習形態の工夫を行うことにより、「主体的に問題を解決する力」の育成をねらった。

学びを引き出す



自主的にヒントコーナーへ行き、見通しが付いたら自力解決へ向かった。

学びを振り返る



みんなが解けるようになるため、自由に席を立ち、学び合った。

学びを支える



実物投影機で見やすく拡大することで、黒板上でホワイトボードを動かし、考え方を分類した。

「自ら考え、主体的に問題を解決する力」の育成について

自力解決の場面、ペアや班で学び合う場面では、問題の解決に向けてヒントコーナーに足を運んだり、積極的に友人に質問したりと、自ら必要な情報を収集する生徒の姿が見られた。このことは、つけたい力の育成に向けた学習活動を授業に位置付けることや、手だてを講じることを継続した結果であると考えられる。

⑦小学校理科 山都町立清和小学校4年

「星の明るさや色」

つきたい  
力

関わり合う力

ねらい

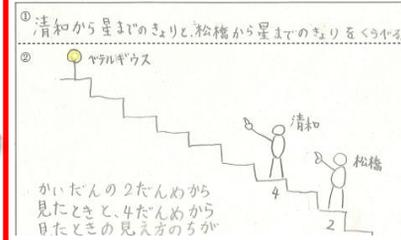
本単元の学ぶべき内容「イ 空には、明るさや色の違う星があること」の理解に加え、「清和は本当に星がきれいに見えるのだろうか」という問いを設定することにより、地域と関わりながら問題解決的な活動を行い、地域の良さを実感するとともに「関わり合う力」の育成をねらった。

学びを引き出す



他地域との比較を通した問いにより、地域の当り前に目を向けた。

学びを振り返る



星がきれいに見えるのはなぜなのか、自分の仮説に基づいた実験計画を立てた。

学びを支える



ゲストティーチャーの元清和天文台長から、学んだことの価値付けを聞いた。

「関わり合う力」の育成について

「家族と星について話すことが増えました。」「清和はとてもいいところだと改めて思った。」など、家族や地域との関わりを意識する感想が聞かれた。これは、これまで当たり前だと見過ごしていた地域の自然に目を向け、問題を解決する活動を通して、地域のよさを共有する学習活動が展開された結果と考える。

⑧中学校理科 宇土市立住吉中学校1年

「大地の変化 火山」

つきたい  
力

関わり合う力

ねらい

単元を通して、「住吉地区に分布する岩石にはどんな秘密（種類や特徴、成因等）が隠されているのだろうか」という課題を解決することを目指した。生徒が持ち寄った地域の岩石が学習を通して明らかになる学習活動を設定し、地域の特徴的な素材の価値に気づき、学びを深めていくことで「関わり合う力」の育成をねらった。

学びを引き出す



身近なものへの価値に意識が向き、単元を通して解決する課題を確かめた。

学びを振り返る



知識構成型ジグソー法※2により、各自が学習したことを共有した。

学びを支える



生徒の疑問と学習内容を組み合わせさせた小単元の構成により、思考の流れに沿った学習を行った。

「関わり合う力」の育成について

本時の学習だけでなく、単元を通して意欲的に当事者意識を持って課題解決に向かう姿が見られた。これは、自分が持ってきた岩石を通じて、全体との関わりや課題との関連を考え、解決に向かう学習活動が展開された結果と考える。

※2 知識構成型ジグソー法：大学発教育支援コンソーシアム推進機構（CoREF）が独自に開発した学習法。詳細は<http://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515>を参照。

## ⑨小学校音楽

菊陽町立菊陽中部小学校6年

つきたい  
力

追究する力

「音楽でメッセージを伝えよう」

ね  
ら  
い

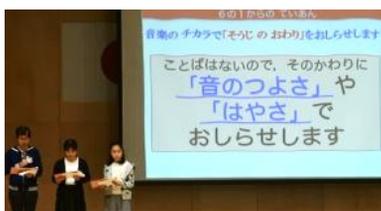
目的意識、相手意識を持って課題を解決していくことができるように、身近な学校生活上の問題を音楽の力で解決しようという課題設定を行う。音楽づくりにおいて、全校児童にメッセージが伝わるような曲を試行錯誤しながらつくる学習を通して「追究する力」の育成をねらった。

学びを引き出す



課題を設定するとき、音楽の力で解決できそうなことについて話し合った。

学びを引き出す



「6の1から提案しよう！」

学活や鑑賞の時間を組み込んだ題材構成により、課題の解決を意識して学習に取り組んだ。

学びを振り返る



学習活動を個→班・全体→振り返り（個）とし、毎時間課題について振り返った。

「追究する力」の育成について

振り返りにおける自由記述の分析によると、メッセージが伝わるようにするためには、強弱や速度等の音楽を形づくっている要素をどのように変化させるとよいかについて、時間を追うことにより具体的な記述が見られた。これは毎時間の課題に対する振り返りにより、「追究する力」が高まったためと考える。

## ⑩中学校美術

宇城市立松橋中学校1年

つきたい  
力

目標に向け、見通しを持ってやりとげる力

「材料を生かして」

～伝統を受け継ぐ竹細工作品を、大切な人に贈ろう～

ね  
ら  
い

伝統工芸品と安価なプラスチック製品でできた風車をそれぞれ比較し、身近な素材である竹のもつ特性や良さに気付くとともに、生徒による学び合いや外部講師との対話的な学習により作品を完成させることを通して、「目標に向け、見通しを持ってやりとげる力」育成をねらった。

学びを引き出す



身近な素材である竹で作られた風車と安価なプラスチック製品の風車との比較から課題を考えた。

学びを振り返る



知識構成型ジグソー法により、竹細工に関する知識や加工する技能を振り返り確かめた。

学びを支える



地元外部講師を招き、生徒が相談・活動しやすい環境を整え、対話的な学びを通して風車を完成させた。

「目標に向け、見通しを持ってやりとげる力」の育成について

授業後の感想から「誰かが困っていた時には話しかけたい。」「竹細工の技術を教えてもらい、これからは受け継いでいけない技術だと思った。」との意見が出された。これは、難しい技能を要する「竹を編みこむ」過程などで、計画通りに進まない生徒が班員や外部講師に自ら質問し対話しながら作業を進める学習活動が行われた結果であると考えられる。

松高小学校：「バスケットボール」  
 志岐小学校：「ソフトバレーボール」

ねらい 「チームの特徴に合った作戦づくり（メンバーの特徴を生かした役割やポジションの設定）」という学習課題を解決（達成）するために、児童は、仲間を理解し、仲間と協力し合うことが必要となる。そのような学習活動の下で「思いやる心」の育成をねらった。

学びを引き出す

「チームの特徴に合った作戦」とは？

検証1



検証2



仲間を理解し、仲間と協力しながら、「チームの特徴に合った作戦」を考えていた。

学びを振り返る

思考の可視化（共有化）

検証1



検証2



ワークシートや作戦ボードを使いながら、作戦がチームの特徴に合ったものかを振り返っていた。

学びを支える

多様性を認め合う仲間づくり

検証1



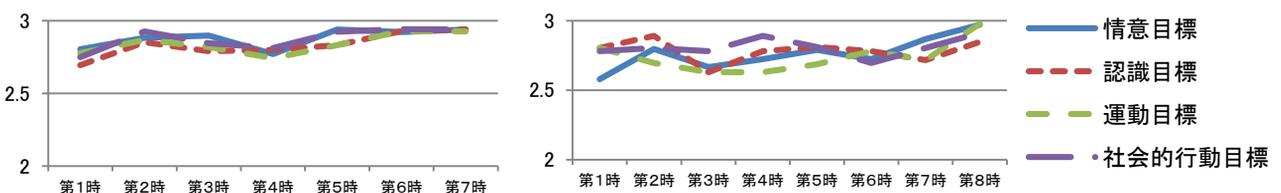
検証2



体力・運動能力や運動の技能、資質・能力「思いやる心」において多様なメンバーで編成したグループで学習を進めていた。

「思いやる心」の育成について

下グラフは、検証授業で行われた学習を児童が評価した結果である。このように満足度の高い学習が開けてきたのは、児童が「思いやる心」を働かせたり育んだりした結果であると考えられる。



# ⑬高等学校国語

県立鹿本高等学校2年

つきたい  
力

意欲的・自主的に学ぶ態度や力

「枕草子」「木の花は」

ねらい

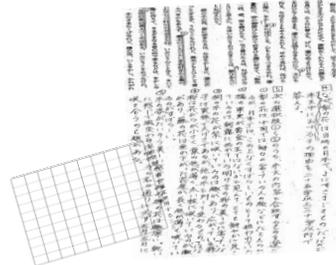
教材の内容を正確に読み取った上で、本文のポイントとなる作者の視点や感性・文学的素養を理解するための手法として、自分で問いを立てペアやグループで検討することを通して、読みを深めるとともに、「意欲的・自主的に学ぶ態度や力」の育成をねらった。

## 学びを引き出す



創作した問題と解答の整合性を考えることにより、学習内容についての理解を深めた。

## 学びを振り返る



適切に思考ツールを活用することで、生徒が自らの変容に気付いた。

## 学びを支える



教師が学習過程を明示することで、見通しを持って学びに向かった。

### 「意欲的・自主的に学ぶ態度や力」の育成について

自分たちで考えた問いをペアワークで活発に検討し、読みが浅かったり、記憶が不十分だったりする場面に自分で気付きながら、読みを深めている姿が見られた。これは思考ツールを使い、自分たちで真剣に問いを考え、教師が的確に言葉かけを行った結果だと考える。

# ⑭高等学校公民

県立南関高等学校3年

つきたい  
力

積極的なコミュニケーション能力

「豊かな社会の実現を目指して」

ねらい

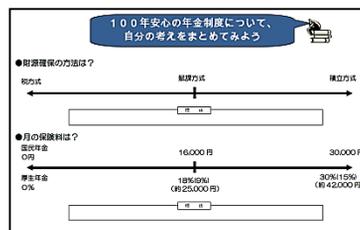
「積極的なコミュニケーション能力」を育成するための学習活動として、「多様な価値観をもつ他者との対話」を軸に据えた。また、学習活動を生む「問い」の工夫として、小单元ごとに「当事者意識を生む問い」を設定し、生徒が主体的に学ぶ姿勢を引き出すことをねらった。

## 学びを引き出す



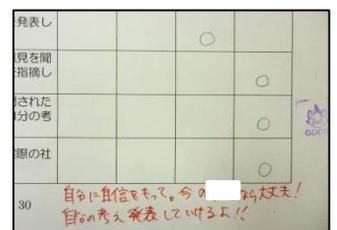
年金制度のしくみと課題について学んだうえで、「問い」に取り組むことで、当事者意識を高めた。

## 学びを振り返る



思考ツールを用いて、年金制度の改善について自分の意見をまとめ、他者の意見と比較して考えを深めた。

## 学びを振り返る



小单元ごとに、生徒が自己評価を行い、教師がコメントを返すことで、主体的に学ぶ意欲を高めた。

### 「積極的なコミュニケーション能力」の育成について

授業では「100年安心して続く年金制度」について考えるグループ討議の中で、生徒が積極的にコミュニケーションをとる姿が見られた。これは、資料等を用いて少子高齢化に伴う年金財源等の課題を十分に認識させたうえで、生徒たちに「当事者意識を生む問い」を投げかけたことや、自分の意見と他者の意見を比較できるようにワークシートを工夫したことで、討議における対話の軸ができ、内容が焦点化された結果だと考える。

⑮ 高等学校数学

県立鹿本高等学校 2年

つきたい  
力

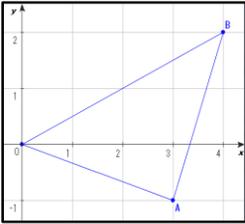
根拠を持ち、論理的に考え、問題を解決する力

「ベクトル」

ねらい

問題解決には、様々な解法等の吟味や検討が欠かせない。そこで座標平面上の3点を結ぶ三角形の面積をベクトルの成分表示を利用するなど、様々な方法で求めたり、ベクトル表記だけの三角形の面積公式の証明に取り組んだりすることを通して、問題を解決する力の育成をねらった。

学びを引き出す



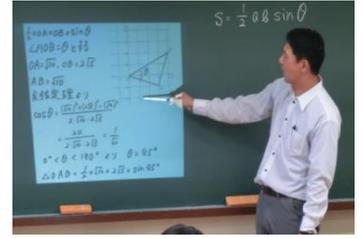
ワークシートで目盛りをそろえ、全員同じ図になるようにした。

学びを支える



集団思考の際に、席を自由に移動し、互いの考えを出し合った。

学びを支える



教師が重要な式等に色チョークでアンダーライン等を書き込むことで、学習内容の理解を深めた。

「根拠を持ち、論理的に考え、問題解決する力」の育成について

以前よりは、演習問題のときに粘り強く問題に向かい、積極的に意見交換する姿が見られた。また、少しずつ物事を論理的に考えられるようになり、クラスメイトと学び合いながら、問題解決する姿も見られた。このことは、様々な解法を通して課題解決に向かう問題の設定と、集団思考の場を設定した結果であると考えられる。

⑯ 高等学校家庭

県立熊本高等学校 1年

つきたい  
力

消費者市民として、堅実な意思決定をする力

「炭水化物とその食品」

ねらい

消費量が下がる一方の「米」を題材とした「企画『米を食べる!』」を通して、消費者市民として、堅実な意思決定する力を養い、「健全な食生活の在り方」の見方・考え方を深め、その変容を図る。

学びを引き出す

【消費者市民としての視点】

- A 日本の食料自給率、米や小麦の消費量の推移等について考えること。
- B 日本の伝統文化を引き継ぎ、次の世代につなげること。
- C 日本の農業などの産業のあり方について考えたものであること。
- D 循環型社会に対応し、安心・安全であること。
- E 食べた人がうれしくなること。

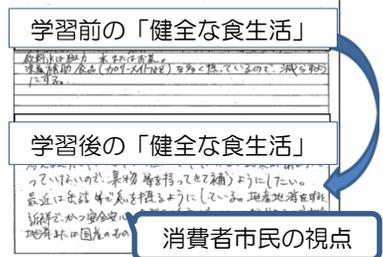
消費者市民の視点を意識し、食生活を社会的側面からも改善できる米料理を考察する。

学びを振り返る



企画の趣旨に最も適している米料理に1票投じることで、互いの考えを評価し合った。

学びを振り返る



食領域の学習前後において、「健全な食生活」を考え、変容を振り返った。

「消費者市民として、堅実な意思決定をする力」の育成について

日本の主食である「米」に対する「思い」が変容し、深まる発言が見られた。また、学習前に考えた「健全な食生活」は、自分の健康に関する記述のみが大半を占めたが、単元学習後は、「社会全体の健全な食生活」に向け、消費者市民としての責任を果たす(堅実な意思決定)大切さについての記述が見られた。消費者市民としての視点を意識した、米料理考案に関する一連の探究活動の結果だと考える。

# ⑰ 高等学校保健体育

県立南関高等学校 3年

つきたい  
力

## 主体的に学ぶ力

「体づくり運動」

ね  
ら  
い

単元「体づくり運動」において、高齢者の方に新しい運動プログラム提供しようという問いを立て、地域の人的・物的資源を活用した社会に開かれた教育課程のもと「主体的に学ぶ力」を育成する。

### 学びを引き出す



高齢者の体力の現状を踏まえた運動となっているか？仲間どうしてアドバイスした。

### 学びを振り返る



高齢者の特性を踏まえたオリジナル運動となっているか、改善しながら振り返った。

### 学びを支える



タブレットPCなどを活用し、視覚的に改善点を捉えた。

#### 「主体的に学ぶ力」の育成について

好奇心を高め、試行錯誤しながらオリジナル運動を考える姿が見られた。このことは、仲間からのアドバイスやゲストティーチャーからの助言を聞く場面を取り入れたり、ICT機器の活用により視覚的な支援を行ったりした結果であると考えられる。

# ⑱ 高等学校保健体育

県立高森高等学校 2年

つきたい  
力

## 主体的に学ぶ力

「体づくり運動」

ね  
ら  
い

地域の体力向上のために、対象者に応じたオリジナルエクササイズを提供しようという問いをたて、地域の人的・物的資源を活用した社会に開かれた教育課程のもと「主体的に学ぶ力」の育成をねらった。

### 学びを引き出す



ゲストティーチャーから出された課題を見直し、グループの課題解決へとつなげた。

### 学びを振り返る



改善学習シートを活用し、グループの課題が改善されているかを振り返った。

### 学びを支える



ビデオやタブレットPCを活用し、地域の方々にとって見やすく、魅力ある動画を作った。

#### 「主体的に学ぶ力」の育成について

自己表現を積極的に行う姿が多く見られるようになった。このことは、グループにおける対話的活動や協働して発表する場を設定した結果であると考えられる。

①⑨ 高等学校総合的な学習の時間 県立第二高等学校 1年

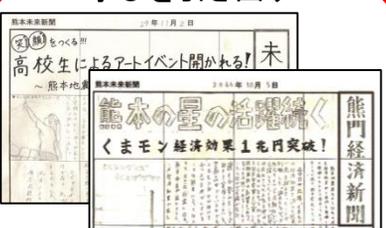
「未来新聞」

つきたい  
力

主体的に学ぶ力

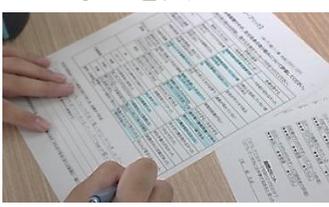
ねらい 「現代社会」のレポートをもとに、よりよい熊本が実現した未来を描いた「未来新聞」をグループ活動を通して制作したり、次単元「テーマ研究」に向けての課題設定につなげたりすることで、「主体的に学ぶ力」の育成をねらった。

学びを引き出す



熊本の未来を先に考えることで、自ずと現在を見つめ直し、自分と社会との関わりを意識していた。

学びを支える



ルーブリック評価表を活用した自己評価と、グループ内の対話による振り返りから、自身の課題や自己変容に気付いた。

学びを支える



多様な考えを出しやすい雰囲気作りにより、互いの生徒の意見を受容的に聞いた。

「主体的に学ぶ力」の育成について

制作した新聞の発表会を通して、自分の主張を相手に伝えるために必要な様々な要素に気付く姿が見られた。このことは、地域へのインタビュー等により、社会との関わりを生徒自身が自ら考え、社会参画を意識して熊本の未来像を描くことができた結果であると考えられる。

②⑩ 高等学校産業教育 県立鹿本商工高等学校 3年

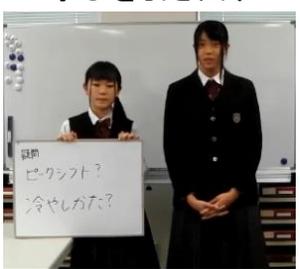
「環境工学基礎」

つきたい  
力

課題対応力

ねらい 学校に設置してある自動販売機を題材として、省エネルギーに関する学習を行った。商業科から出された消費電力量削減についての疑問をもとに、これまで学んだ知識や技術・技能を活用し、課題解決に向けて探究的に課題に取り組むことを通して、「課題対応力」の育成をねらった。

学びを引き出す



他学科からの依頼や身近な題材の活用により、学びの意義を実感した。

学びを振り返る



思考ツールの活用により、考える視点を意識し、協働して課題解決に向かった。

学びを支える



ICTを活用することで、時間と場所の制約を超えて、情報を共有した。

「課題対応力」の育成について

単元を通して、当事者意識を持って粘り強く課題に対応する姿が見られた。このことは、既習事項や自動販売機の測定結果等をもとに、グループ内で吟味、検討し、商業科に具体的な改善案を提案することを行った結果であると考えられる。

# 課題研究

本県の喫緊の教育課題に対応するために、「調査研究」「テーマ研究」とは別に、「課題研究」を行うこととした。各取組においてそれぞれの、課題を明らかにし、課題解決に向けた実践を行った。

## ① 道徳

宇城市立豊川小学校2年

南小国町立南小国中学校3年

現代の社会背景やいじめの問題などの現代的な課題、これまでの道徳教育の課題を踏まえ、今回の改訂は、道徳教育の実質化及びその質的転換を図ることを目的としている。「特別の教科 道徳」(道徳科)の目標は「道徳性を養う」ための学習活動を具体化し、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と規定されている。特に、学習活動において、児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが求められており、この部分に着目した授業の在り方について、実践事例等を提案することにした。

### 多面的・多角的な思考を促す

「特別の教科 道徳」(道徳科)の趣旨・内容を踏まえた授業の展開

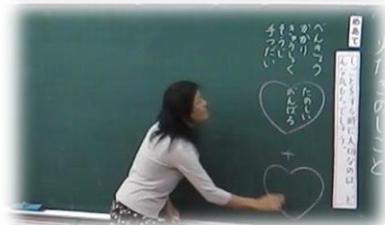
— 「熊本の心」の効果的な活用や指導方法の工夫改善を通して —

### 学びを引き出す

#### 【小学校の実践】

主題名:みんなのためにはたらこう C 勤労、公共の精神

教材名:「火たきおとめ」(出典:『くまものこころ』(熊本県教育委員会))



①児童生徒が課題追求意識を持ち道徳的価値を自分との関わりの中で深めることができるよう、学習全体を見通した「問い」を設定する。

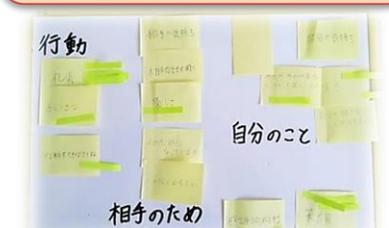
②学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つめるための具体的な振り返り活動を工夫する。

③自分の考えを多面的・多角的な視点から振り返ったり、互いの考えの異同を整理して、自分の考えになかったものを受け入れて生かすために、「思考ツール」を活用する。

④児童生徒自身がものの見方、考え方、感じ方などを確かめ、学習を振り返ることができるように、ワークシートを工夫する。

⑤児童生徒の実態に応じた視聴覚教材等を効果的に活用し、すべての児童生徒が道徳的価値について理解したり、自己の生き方を考えたりできるようにする。

⑥児童生徒が思考を深める重要な手掛かりとなるような板書の工夫を行う。



#### 【中学校の実践】

主題名:将来の働き方 C 勤労

教材名:「万田坑と共に」(出典:『熊本の心』(熊本県教育委員会))

学習前後の児童生徒の意識調査では、話し合いで自分の意見と友達の意見を比較しながら、考えが変わったり深まったりするという項目に伸びが見られた。また、児童生徒のワークシートからは、自分のこれまでの生活経験等に基づく一面的な見方から、他者の多様な意見に触れ、受け止め、より多面的・多角的に思考を深め、自己の生き方を振り返る記述が多数見られた。これらの実践は、日頃から何でも言い合え、認め合える学級経営が基盤にあり、その上で授業者が、児童生徒の実態に応じた指導の工夫を行った一事例である。今後も、児童生徒の発達段階や発達の特性、指導内容などに応じた方法について研究を重ね、質の高い多様な指導方法の在り方を検討していきたい。

# ②英語教育

文部科学省は、各中学校・高等学校の外国語教育において、各学校で「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を設定することとしている。しかし、中学校において、「平成27年度英語教育実施状況調査」の結果（熊本県）を見てみると、CAN-DOリストの設定率は99.2%であるが、公表率は17.9%、達成状況の把握については60.2%となっている。このことから、各学校でCAN-DOリストを設定しているにもかかわらず、その活用が十分になされていないという現状があり、CAN-DOリストの活用に課題があると捉えた。そこで、CAN-DOリストの活用を通じた児童生徒の英語学習への意欲を高める授業デザインについて、実践事例を提案することにした。

## 児童生徒の英語学習への意欲を高める授業デザイン — CAN-DOリストの活用を通して —

ねらい：CAN-DOリストを活用した授業デザインを行うことで児童生徒の英語学習への意欲を高めることをねらいとした。なお、小学校での実践は、先行研究としての意義を持つ。

### 学びを引き出す

※3 小学校6年

- S** 一日の生活を英語で言える。
- L** 友達の生活を聞いて分かる。
- R** 時刻が読める。

【学習課題】  
「5年生におすすめ！  
修学旅行の1日を紹介しよう！」



CAN-DOリストに基づく  
相手意識のある言語活動の設定

相手意識

身近な話題

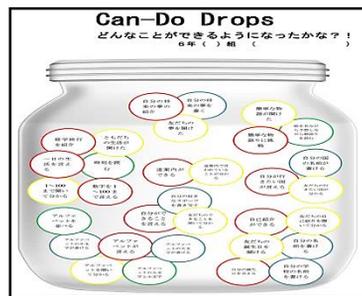


身近で書きやすい内容（自己・他者・学校紹介など）について英語で書くことができる。

【学習課題】  
「ALTの先生に  
『合志中の先生たち紹介book』  
をプレゼントしよう。」  
中学校1年

### 学びを振り返る

第6学年のCAN-DOリストを児童向けに使いやすい形にした「CAN-DO Drops」。  
児童が達成度に応じて項目を塗り上げていく。



振り返り  
相互評価

Unit6 CAN-DOリスト		Class	No.	Name	
1	自分の好きな食べ物について紹介ができる	1	1		
2	自分の好きな動物について紹介ができる	2	2		
3	自分の好きな季節について紹介ができる	3	3		
4	自分の好きなスポーツについて紹介ができる	4	4		
5	自分の好きな映画について紹介ができる	5	5		
6	自分の好きな音楽について紹介ができる	6	6		
7	自分の好きなゲームについて紹介ができる	7	7		
8	自分の好きな漫画について紹介ができる	8	8		
9	自分の好きなテレビ番組について紹介ができる	9	9		
10	自分の好きな本について紹介ができる	10	10		
11	自分の好きな場所について紹介ができる	11	11		
12	自分の好きな人について紹介ができる	12	12		
13	自分の好きな動物について紹介ができる	13	13		
14	自分の好きな植物について紹介ができる	14	14		
15	自分の好きな色について紹介ができる	15	15		
16	自分の好きな数字について紹介ができる	16	16		
17	自分の好きな曜日について紹介ができる	17	17		
18	自分の好きな月について紹介ができる	18	18		
19	自分の好きな年について紹介ができる	19	19		
20	自分の好きな国について紹介ができる	20	20		
21	自分の好きな都市について紹介ができる	21	21		
22	自分の好きな食べ物について紹介ができる	22	22		
23	自分の好きな飲み物について紹介ができる	23	23		
24	自分の好きなスポーツについて紹介ができる	24	24		
25	自分の好きなゲームについて紹介ができる	25	25		
26	自分の好きな漫画について紹介ができる	26	26		
27	自分の好きなテレビ番組について紹介ができる	27	27		
28	自分の好きな本について紹介ができる	28	28		
29	自分の好きな場所について紹介ができる	29	29		
30	自分の好きな人について紹介ができる	30	30		

自己評価シートにCAN-DOリストを大きく記載することで、目標と振り返りの視点を焦点化する。

### 学びを支える

CAN-DOリスト・授業の流れを掲示する。  
児童と本時の目標や単元のねらいを共有する。



目標の共有  
見通しを持たせる



CAN-DOリスト・授業の流れを掲示する。  
生徒と本時の目標や単元のねらいを共有する。

質問紙の項目「コミュニケーションに対する積極的な態度」「振り返り」の項目について、検証授業前より検証授業後の方が伸びが見られた。また、教師にも授業デザインへの意識の変容が見られた。

CAN-DOリストの活用：①言語活動の設定 ②振り返り・相互評価 ③目標の共有・見直し

# ③情報教育

教育センターで行われている教員研修に関して、集合研修等の様子から以下の課題が報告されている。

- 研修を受けたくても、日常業務の多忙化などにより、研修のための時間を十分に確保できない。
- 研修直後の受講者の研修に対する満足感や達成感が高いが、実際の授業での活用にまでは至っていない。
- 集合研修に、受講者の実践を促すための事前の支援が必要である。

そこで本研究では、各学校でのミドルリーダー養成を視野に入れ、集合型研修と同等の内容を確保しながら、研修の時間を確保することが困難な教員でも受講できる配信型研修について、今後の課題や可能性を明らかにする。

## 配信型研修への取組と今後の課題

－ LMS（学習管理システム）を活用した研修支援 －

### 教材コンテンツの配信

配信のみの、主に各学校や個人が教材コンテンツを視聴する場合の活用を想定した取組

- ・熊本地震等に伴う児童生徒の心のケアについての動画
- ・人権同和教育課とタイアップして作成したプレゼンテーション動画



### eラーニング研修

eラーニング研修の進捗状況の把握や研修者との情報を共有できるシステムの活用を想定した取組

- ・5年経験者研修
- ・10年経験者研修
- ・地域に開く学校CMS運用研修
- ・平成28年度熊本県教育情報化、指導者養成配信型研修



### ブレンド型研修

集合研修における演習等の効果を高め、研修を実践的なものにするために、eラーニング研修と集合研修を併せた場合を想定した取組

- ・学力向上を目指すICT活用実践研修
- ・児童生徒の主体的なICT活用研修
- ・デジタル写真や動画編集研修
- ・校内ネットワーク研修



### テレビ会議による配信研修

研修者と日程を調整し、対面型の研修に近い環境で研修ができるテレビ会議システムの活用を想定した取組

- ・学びのUD化研修
- ・ICTを活用した授業改善研修
- ・校内研修支援
- ・家庭科実践研修



### 課題

配信型研修は、本年度から試行的に取り組んでおり、進めるうえで数々の課題が見えてきた。

- ・コンテンツ作成のための技術的スキル
- ・コンテンツ作成にあたって著作物等の検閲方法
- ・研修者のモチベーションの維持
- ・配信型研修と集合研修、出前研修の連携

# ④特別支援教育

山鹿市立山鹿小学校 自閉症・情緒障がい学級  
山鹿市立山鹿中学校 自閉症・情緒障がい学級  
県立荒尾支援学校 中学部一般学級

昨年5月に文部科学省から示された「特別支援教育部会における議論の取りまとめ（案）」（以下「取りまとめ」という。）において、特別支援教育の意義として、「インクルーシブ教育システムの理念の実現を目指している」ことが示されている。また、次のような課題が指摘されている。

- 「交流及び共同学習」については、活動にとどまり、どのような力が身についているかを評価し、指導の改善につながっていない。
  - 「自立活動」については、一人一人の幼児児童生徒の障害の状態等に応じた、指導目標や指導内容の設定等について、教員の理解が十分ではない。
  - 「知的障害のある児童生徒のための各教科」については、各教科等を合わせて指導を行う場合、各教科の目標・内容を関連づけた指導及び評価の在り方が曖昧になりやすい。
- 以上の特別支援教育の今日的課題について、研究協力校それぞれの学校の状況や児童生徒の実態等を踏まえ、それらの課題解決に向けての実践事例を提案することにした。

インクルーシブ教育システムを踏まえ、障がいの状態に応じた主体的な学びを目指して

## 各校のテーマ

### 山鹿市立山鹿小学校

「交流及び共同学習における校内システムと授業の工夫」  
ー 通常の学級と特別支援学級の教師間の連携と児童の主体的な学びを目指してー

### 山鹿市立山鹿中学校

生徒の思いを取り入れた「自立活動」を目指して  
～生徒の主体的な学びを育む学習課題の設定～

### 県立荒尾支援学校

知的障がいのある生徒の「教科別の指導」の充実を目指す取組  
～生徒の主体的な学びを目指した振り返りの在り方～

## 主な取組

学年会や特別支援学級例会の持ち方などの時間を有効に使う工夫や、打合せカードや年間計画の作成などの教師が見通しを持つための工夫に取り組んだ。そして、複数の交流教室で学ぶ児童に対する効果的な支援の在り方を模索した。

生徒が主体的に取り組む自立活動の授業に取り組んだ。「チェックシート」を活用して生徒の思いを引き出し、その結果を基に生徒と共に学習課題を設定していく授業の在り方について検証した。

個別の目標を設定し、授業者全員で個に応じた手だてを講じる。  
生徒と教師双方の振り返りを基に、より主体的な取組につなげる。

## 結果

「打合せの時間をとることができている」「目標や内容、手立てなどを話し合っている」と答える教師が大きく増えた。また特別支援学級在籍児童が、友達の良さや自分が工夫したことなどを発表する姿が増え、振り返りも質量共に向上した。

「教師の考え」と「生徒の思い」を客観的に把握し、生徒の思いに即した学習課題を設定することができた。自立活動において生徒が主体的に取り組むための実態把握の方法や学習課題の設定の仕方について明らかにすることができた。

教師全員の共通理解の下、授業を進めることができた。振り返りの工夫により、前時の反省を基に授業を改善することができた。生徒が分かったことを表しやすくなり、教師もより実態をつかめるようになった。

## 障がいのある児童生徒の主体的な学びのために

「交流及び共同学習」・・・校内システムの充実（時間の構造化、見える化）

授業の工夫（場と時間の構造化、教材教具、評価の工夫）

「自立活動」・・・チェックシートの工夫、生徒の思いを取り入れた学習課題の設定

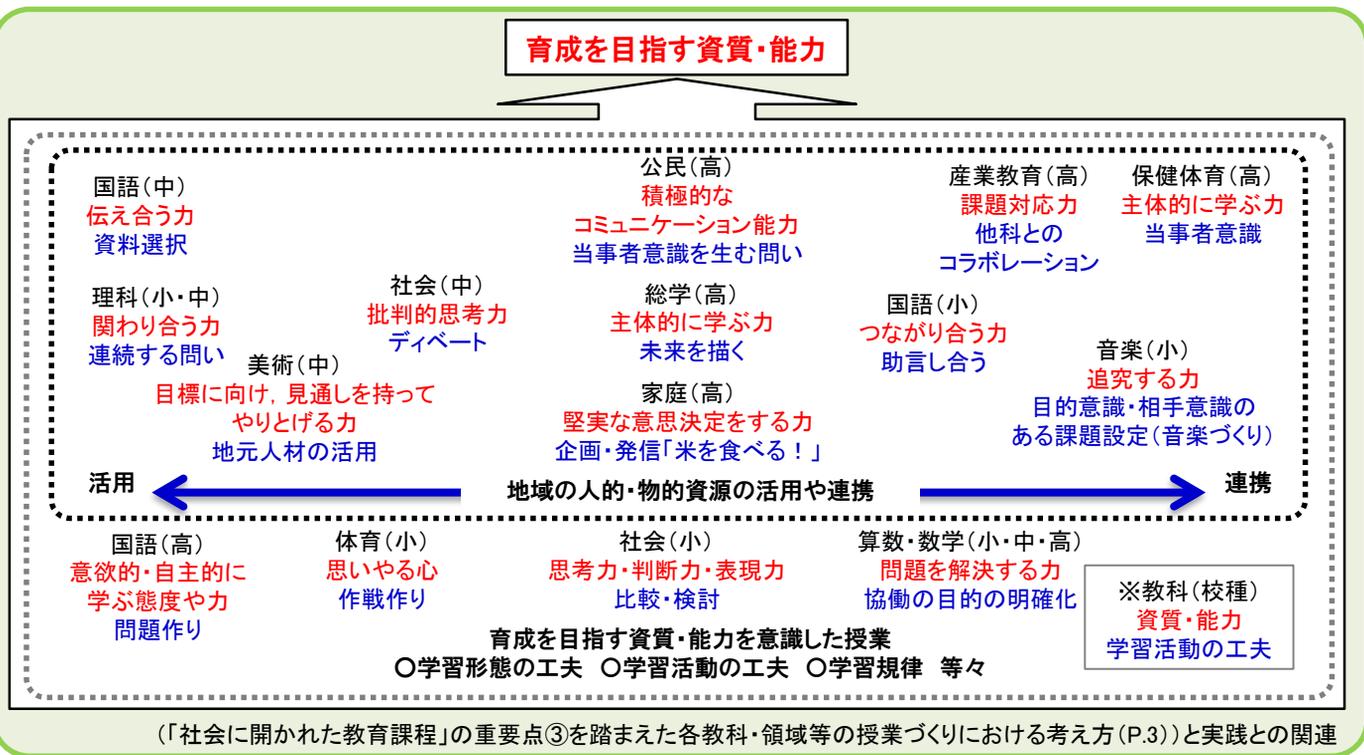
「教科別の指導」・・・個別の目標の設定 振り返りの工夫（生徒・教師）

# 研究のまとめ

調査研究ユニット、テーマ研究ユニット、課題研究ユニットの取組や検証結果についての詳細は、本教育センターホームページ (<http://www.higo.ed.jp/center/研究紀要/>) に掲載している。

## 「社会に開かれた教育課程」について

下の表は、本パンフレットに掲載のテーマ研究における実践を「社会に開かれた教育課程」の重要点③（本パンフレットP.3と関連）を踏まえ、「育成を目指す資質・能力を意識した授業」と「地域の人的・物的資源の活用や連携」で整理したものである。

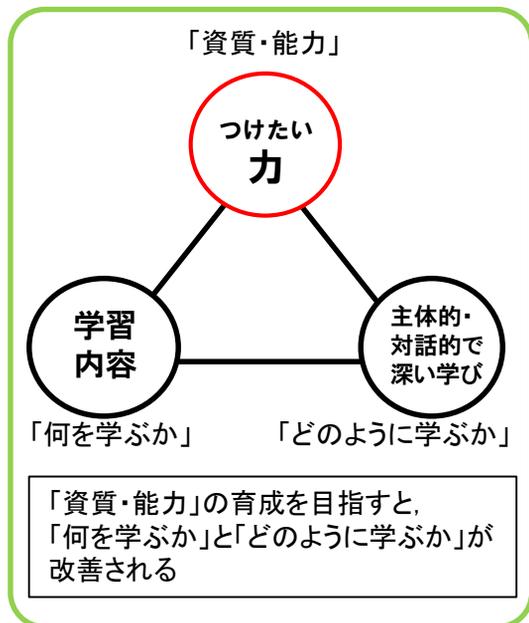


本実践を整理したことから、各教科の特質によって「地域の人的・物的資源の活用や連携」を図る授業づくりの取り組みやすさに違いがあるものの、授業づくりにおいて、「資質・能力」を意識したり、児童生徒が学校や社会とどのように関わるかについて工夫したりした本実践は、「社会に開かれた教育課程」の重要点③の具体的な例として提供できるものであると考えられる。

## 「資質・能力」について

「資質・能力」の育成を目指したことで、次のような工夫が生まれた。体育(小)のように、「思いやる心」を育成するために班編成を工夫するような学習形態を工夫した授業。また、理科(小・中)のように、学習する対象物である教材に地域素材を用い、学習内容を工夫した授業。さらに、音楽(小)のように学習の目的意識を社会との関わりで設定し、学習活動を工夫した授業。

これらの授業は、一般的に行われてきた「学習内容をいかに児童生徒が理解できるようになるかを意識した授業づくり」とは違う。「資質・能力」の育成を目指した授業は、授業者がどのような「資質・能力」を育みたいのかを明確にし、「何を学ぶか」や「どのように学ぶか」を改善したものであった。3年間に積み重ねられた「資質・能力」の育成を目指した改善の具体例は、本パンフレットやホームページにも示している。「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す授業づくりのアイディアの一例として活用できるものと考えられる。



## 「主体的・対話的で深い学び」について

下のグラフは、「主体的・対話的で深い学び」の充実について質問紙調査(「4 とても思う・3 そう思う・2 あまり思わない・1 そう思わない」の4件法)で検証を図ったものである。校種ごとの検証授業前後での変容が示すように、それぞれ学びの充実が図られていることが分かった。

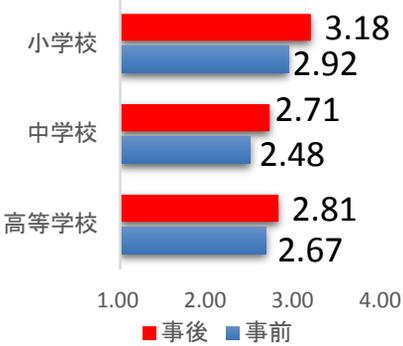
今年度、新たに「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、「これからの社会に求められる資質・能力」を設定し、その育成を目指すこととした。各教科・領域等に表れた児童生徒の姿から、育成につながる検証結果が得られた。

これらのことから、研究の三つの視点によって取り組まれた授業づくりの手法が、学習内容の獲得や「資質・能力」の育成に有効であることを確認することができた。また、学校・地域の願いや実態から「資質・能力」を設定したり、社会との関わりから学習計画を構想したりすることは「社会に開かれた教育課程」編成に向けた具体的な例として提案できるものとする。

今年度の取組を、今後の学校現場における授業実践に生かせるよう、県内全域へ情報提供に努めることで研究の成果を還元したいと考える。

(小学校n=167, 中学校n=126, 高等学校n=324)

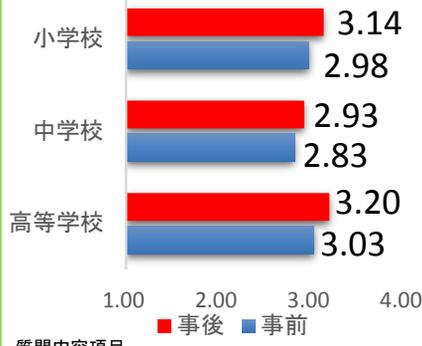
### 「主体的な学び」に関連する調査



質問内容項目

自分は、新しい問題や課題に出会ったときに、それを解いたり、解決したりしてみたいと思う。

### 「対話的な学び」に関連する調査



質問内容項目

授業の中で、先生や友達に質問されたりアドバイスされたりすることによって、自分の考えが広がったり、深まったりしている。

### 「深い学び」に関連する調査



質問内容項目

自分は、授業で何を学んだだけでなく、何を知ったか、何ができるようになったか振り返っている。

## 「カリキュラム・マネジメント」について

「これからの社会に求められる資質・能力」を設定するために、学校教育目標を基に職員が意見を出し合い「つけたい力」として共有していくことは、学校教育目標を中心とした学校全体の取組につながるということが分かった。より効果を高めるには、各教科・領域等の本質を踏まえた授業が行われ、「つけたい力」が育成されているかを「PDCAの改善サイクル」の軸とすることが期待される。

また、「社会に開かれた教育課程」の地域・社会との関わりについても、地域社会と連携など一つの関わり方に偏りすぎないように、カリキュラム・マネジメントにより各教科・領域等の関わり方を適切に配分していくことが重要であることも分かった。

## おわりに

今年度は、研究協力校を4校委嘱するとともに、熊本県内全域から研究協力員の先生方を委嘱し、授業実践に取り組んでいただきました。各学校の学校教育目標を基に「これからの社会に求められる資質・能力」を設定するなど、各学校が目指す資質・能力を明らかにしながら協議を重ね、実証研究に取り組むことができましたことに深く感謝申し上げます。

これらの研究成果が、熊本地震からの復興に多くの御支援いただきました全ての皆様への感謝とともに、熊本型授業の質的改善へとつながり、熊本地震からの復興に必ずや寄与するものと信じております。

本センターの研修をはじめ、全ての事業において、本成果の普及を図って参りたいと思います。

## 研究協力校

山鹿市立山鹿小学校, 山鹿市立山鹿中学校, 県立鹿本高等学校, 県立荒尾支援学校

## 研究協力員及び研究にご協力いただいた方々

各教科・領域等	管内	学校名	氏名	各教科・領域等	管内	学校名	氏名
国語科	八代	八代市立金剛小学校	熊 智美	国語科	球磨	錦町立錦中学校	上渕 匡基
国語科	県立	県立鹿本高等学校	藤本 絢也	社会科	芦北	芦北町立田浦小学校	福溝 祐一
社会科	山鹿	山鹿市立鶴城中学校	佐伯 綱義	地歴・公民科	県立	県立南関高等学校	川崎 裕子
算数科	玉名	玉名市立横島小学校	田上 俊郎	数学科	天草	天草市立五和中学校	林田 充弘
数学科	県立	県立鹿本高等学校	田淵 耕司	理科	上益城	山都町立清和小学校	出永 展
理科	宇城	宇土市立住吉中学校	松岡 信清	外国語活動	菊池	合志市立西合志中央小学校	金子 亜樹
外国語[英語]	菊池	合志市立合志中学校	松崎 真理子	体育科	八代	八代市立松高小学校	渡瀬 洋
体育科	天草	苓北町立志岐小学校	石井 勇氣	保健体育科	県立	県立高森高等学校	大城戸靖雄
保健体育科	県立	県立南関高等学校	宮本 昌嗣	音楽科	菊池	菊陽町立菊陽中部小学校	合志るみ子
美術科	宇城	宇城市立松橋中学校	千原 義之	家庭科	県立	県立熊本高等学校	岩下 紀子
道徳	宇城	宇城市立豊川小学校	高原 真由美	道徳	阿蘇	南小国町立南小国中学校	田上 茉依
総合的な学習の時間	県立	県立第二高等学校	今村 清寿	産業教育[工業]	県立	県立鹿本商工高等学校	吉武 宏三

## 平成28年度熊本県立教育センター共同研究担当所員一覧

### 研究企画委員

浦川 健一郎 首席審議員併所長  
 古田 亮 副所長兼教科研修部長  
 本山 雅仁 審議員兼副所長  
 西澤 頼孝 審議員兼情報教育研修部長  
 後藤 良信 経営研修部長

### 研究事業推進委員

岩崎 秀司 主幹兼室長  
 本山 浩文 指導主事  
 岩本 龍二 指導主事  
 池田 幸彦 指導主事  
 黒木 幸博 指導主事  
 梶原 圭一 指導主事  
 田上 貴昭 指導主事

### 総務

村上 寛人 総務課長  
 鮎川 由美 参事  
 西 陽子 参事

### 研究企画係

築 義彦 指導主事  
 山内 智之 指導主事  
 武下 浩二 指導主事

### 担当所員

平岡 馨 室長	赤峯 達雄 主幹兼室長	岩下 和子 指導主事	村上 豊優 室長
守永 雄一 指導主事	松尾 和子 指導主事	嶋崎 幸治 指導主事	杉 聖也 指導主事
平川 真由美 指導主事	島 章人 指導主事	永井 一将 主幹兼室長	杉本 康浩 主幹
井上 善朗 指導主事	有田 啓二 指導主事	松原 弘治 指導主事	村田 幸一郎 指導主事
浅井 重光 指導主事	大里 卓 指導主事	森 浩之 指導主事	大山 充 指導主事
彌永 有香 指導主事	大塚 芳生 室長	堀川 和則 指導主事	川崎 征之 指導主事
上村 健太郎 指導主事	菊川 雅子 指導主事	工藤 真紀子 指導主事	古閑 博昭 指導主事
濱 寛明 指導主事	岩崎 敬志 指導主事	西山 俊企 室長	
市原 小百合 指導主事	四元 正明 主幹	櫻井 祐二 指導主事	

がんばるけん!

くまもとけん!

